

令和 5 年 5 月 2 日現在

機関番号：32604

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00967

研究課題名(和文) ミャンマー135民族の民族服製作技術の残存調査と技術学習過程の最適化方法論の開発

研究課題名(英文) A Survey of existent traditional techniques for making ethnic clothes in 135 Myanmar ethnic groups and development of a methodology for optimal skill learning programming

研究代表者

下田 敦子 (SHIMODA, ATSUKO)

大妻女子大学・人間生活文化研究所・准教授

研究者番号：60322434

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：東南アジアの伝統民族服の製作技術保有者は全域的に激減しており、技術文化の継承が危惧されて久しい。そこで多民族国家ミャンマー全域、男女72民族の正装民族服を収集し、製作技術過程を記録し、図録を製作した。また技術要素の残存状況を示した上で、製作技術の特徴(地機使用、原材料、衣服形式など)から72民族服は男4、女3の近縁クラスターに分類でき、民族クラスターごとに製作技術学習過程を探究することを可能にした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の東南アジア諸民族の伝統民族服研究は主として服自体に関心が向けられ、製作技術の記述、保存や次世代への継承に関する問題意識は希薄であった。彼らの殆どは無文字社会であったので文字、画像などを用いた技術伝承がなく、貴重な製作技術文化は消失目前である。本研究ではミャンマーの72民族の伝統民族服製作技術の製作過程を記録保存するとともに、その技術を継承しやすくする教育科学的な学習方法を探究している。

研究成果の概要(英文)：The number of people who possess the skills to make traditional ethnic clothing in Southeast Asia has been decreasing dramatically throughout the region, and there has been concern for a long time about the continuation of the technical culture. Therefore, we collected formal ethnic wear of 72 ethnic groups, both men and women, from all over Myanmar, documented the production process, and produced a catalogue. We have also shown the remaining technical elements and classified the 72 ethnic garments into 4 male and 3 female clusters based on the characteristics of the production techniques (use of machines, raw materials, clothing style, etc.), enabling us to explore the process of learning production techniques for each ethnic cluster.

研究分野：計量民族服飾学

キーワード：ミャンマー 民族服製作技術 無文字社会 技術学習過程 最適化方法論

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

東南アジアにおける伝統民族服は近年の急激な工業製品の普及によって着装する機会が激減し、またその製作技術自体も継承されにくくなっている。かつては家々で、子や孫に製作技術を伝授する母親や祖母の姿が見られたが、現在では就学率の向上に伴って、子どもたちは一日の大半を学校で過ごすようになり、家庭内の親子相伝で技術体系を継承することはほぼ不可能となっている。一方、研究者たちも華やかなプリント柄や機械生産された民族服の形や色彩に関心は向けるが、製作技術の保存、継承に関する問題意識は非常に低調である。更に彼らの生きる社会は殆どが無文字社会であって、伝統的技術を文字や画像などで記録していないために、現状のままでは貴重な技術文化は消失する危険性が大きい。そこで学校教育における職業教育の機会を使って技術を伝承する方法が最適な方法であるとの立場から、長期間の修練が必要だった従来の習得過程を、テキストや映像資料を利用しながら、より教育科学的な合理性をもったプログラムによって効率よく短期間で学習できる方法論を開発しつつある。本研究の核心はこの消失に直面している貴重な民族服製作技術文化を後世に引き継ぎやすくするための方法論の開発である。この目的の一環として、民族ごとに伝統民族服とその製作技術がどの程度残存しているかという現状調査を行い、各民族の民族服の存在の確認と製作技術の維持残存状態を調査し、その技術過程の詳細を記録として残す。しかる後に各民族に最適な学習プログラムを作製する。これまでにこうした研究開発の試みは本研究以外に日本を始め東南アジア諸国でも行われたことがなかった。

2. 研究の目的

民族服製作技術の継承は **10** 年余の期間を要する。しかし近年、家庭における親から子への技術の相伝はその機会が激減し、このままでは早晚、技術の保有者はいなくなり、製作技術そのものの文化が消失し、民族服自体も消滅する可能性さえ危惧されている。そこで対策として職業教育の場でより短期間に技術を合理的に学習できる方法論として教育科学的な合理性を保証できる伝統民族服学習プログラムを試験的に作製し、これまでにスゴーカレン族の民族服製作技術を対象にして、実際に学校教育での実験を経てプログラムの有効性を確認している。そこでこのノウハウを他の民族にも応用することを目指して、ミャンマーの **135** 民族(確認できたのは **72** 民族)での研究を行った。**72** 民族の民族服収集地点を図 **1** に示す。

3. 研究の方法

研究手順は、男女の伝統正装民族服の (1) 現存の有無に関する調査、(2) 民族服製作技術保有者の調査、(3) 製作過程(原材料の栽培などから服の着装までの全過程)の記録、(4) これら一連の研究成果のデータ化と(5) 目録・図録の作製を行う。(4) で製作過程の個々の技術要素を数量化したデータを(6) 数値分類して、より少数の技術過程が類似したクラスターを見つけ、同一クラスター内における民族服製作技術の類型化をおこなう。そのグループごとに(7) 次の段階でタイのスゴーカレン族で検証した手続きで、学習プログラムを提案する。

4. 研究成果

ミャンマーにおける研究協力機関の熱心な協力を得てミャンマー全土に広がる伝統民族服(図 **1**)の(1) 残存の有無に関する調査を行った。北はカチン州から南はマレー半島のタニンダーリまでの **72** 民族の男女正装と装身具を収集した。また(2) それぞれの地域において当該の民族服製作技術の保有者を確認した。次いで各調査員がそれぞれの技術保有者取材して(3) 製作過程(栽培などから服の着装までの全過程)の記録を残した。これらの記録は写真とともにあらかじめ設定した形式に従って報告書の形で同国民族発展大学が集成し、代表者と協議して(4) **700** 頁を超える目録・図録となった。これはミャンマー語と英語で作製されたが公表する成果物は英語だけの予定である。また、(5) 製作過程の個々の技術要素を数量化したデータを用いて(6) 数値分類を行い、より少数の技術過程が類似したクラスターを見つけた。こうして同一クラスター内における民族服製作技術の類型化を行うことで、多様

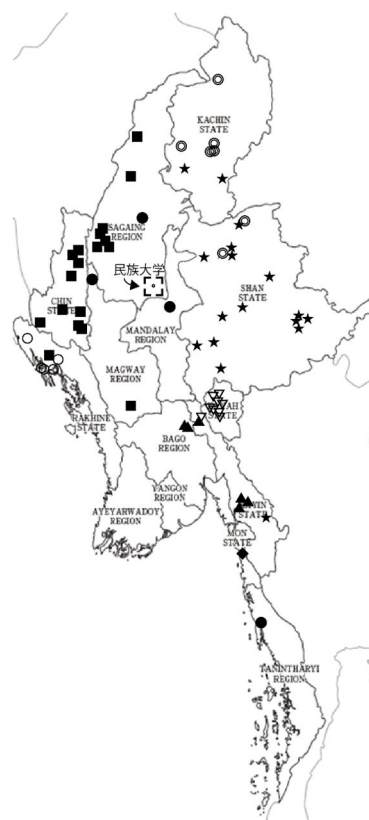


図 1 . 72 民族の民族服収集地点

な 72 民族の製作技術体系をより少数のグループにまとめることが可能となった。図 2、図 3 は同一クラスターに分類されたスゴーカレンとカヤンの民族服製作技術の学習曲線である。この調査によって 72 の伝統正装民族服標本を精査して、7 項目の技術領域（綿花栽培、製糸、染色、製織、縫製、装飾・刺繍、着装）の「現存」「消失」を調査、集計したところ驚く結果が得られた。こうして 72 の民族の技術領域別の現存状況が初めて全国規模で明らかにされた。研究成果としては、各民族はどの民族服製作技術要素を残しているか、また失ってしまっている場合には他の民族の同一あるいは類似技術によって失った技術を補完できるか、を 72 の民族について調査整理して、一覧表を作製した。その結果、85%の民族はすでに「綿花栽培」をしておらず、「製糸」技術も 82%が行わず、「染色」技術は 79%が失っていることが判明した。しかし「製織」技術はまだ半数以上が行っており、「縫製」は 44%が、「刺繍」や装飾については 34%が、「着装」については全民族が行っていたことが明らかになった。

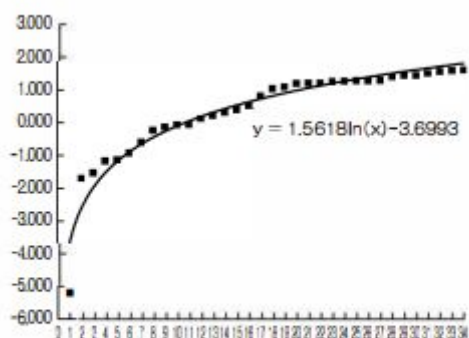


図 2 項目反応理論により推定された技術要素の困難度による民族衣服製作技術の学習曲線—スゴーカレン調査データ（下田ら、2008）

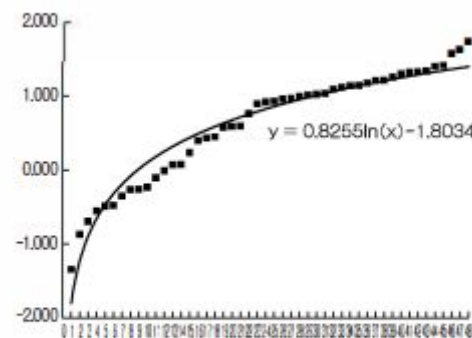


図 3 項目反応理論により推定された技術要素の困難度による民族衣服製作技術の学習曲線—カヤン調査データ

（下田敦子、大澤清二、タンナイン（2022）「無文字社会（カヤン社会）における原始機を用いた民族服製作技術の学習順序性の研究 - 身体技術による伝承方法の再構成 - 」発育発達研究、94、27-44 より引用）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 下田敦子、大澤清二、タンナイン	4. 巻 94
2. 論文標題 無文字社会（カヤン社会）における原始機を用いた民族衣服製作技術の学習順序性の研究 - 身体技術による伝承方法の再構成 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 発育発達研究	6. 最初と最後の頁 27-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5332/hatsuhatsu.2022.94_27	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 下田敦子	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 身体が介在するヒトと道具とのかかわり	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 子どもと発育発達	6. 最初と最後の頁 2-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 下田敦子	4. 巻 19(2)
2. 論文標題 変貌する社会の身体 - 身体文化としての衣服製作技術 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 子どもと発育発達	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 下田敦子	4. 巻 17(4)
2. 論文標題 身体技術としての衣服製作技術を伝承するためのデータ化と解析~カレン民族服の製織過程を最適化する~	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 子どもと発育発達	6. 最初と最後の頁 256-263
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下田敦子、大澤清二、タンナイン、ジョネイ	4. 巻 81
2. 論文標題 生涯にわたる首輪装着がカヤン女性の首の長さをどのように変えるか：いわゆる首長族、カヤン女性の幼児期から70歳までの首の長さの年齢変化について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 発育発達研究	6. 最初と最後の頁 10-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5332/hatsuhatsu.2018.81_10	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 下田敦子
2. 発表標題 シンポジウム「東南・南アジアにおける子どもの調査とその意義（海外で調査を行うには）」『海外調査の方法論 - Man-STECC-PDCA-』
3. 学会等名 日本発育発達学会第21回大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 下田敦子、大澤清二、タンナイン
2. 発表標題 発育期における首輪装着が顔面、頭部に及ぼす影響
3. 学会等名 日本発育発達学会第20回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 下田敦子
2. 発表標題 測定し評価するということ“数による表現の内と外” 測定の評価「身体技術としての衣服製作技術を伝承するためのデータ化と解析」
3. 学会等名 日本発育発達学会第17回大会「シンポジウム」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下田 敦子
2. 発表標題 カヤン（首長族）の最新データ カヤン人女性にとっての首輪の装着とは
3. 学会等名 一般社団法人ミャンマー友好協会「ミャンマー友好イベント」（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 大澤清二、下田敦子、吉村桃実（編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大妻女子大学人間生活文化研究所	5. 総ページ数 40
3. 書名 【図録】東南アジア狩猟採集民の生活と子どもの発育発達	

1. 著者名 Atsuko Shimoda	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Myanmar Book Cente Co., Ltd., Shobi Printing Co., Ltd.	5. 総ページ数 228
3. 書名 Development of a Methodology for Optimizing the Oral Transmission of Traditional Clothes - Making Techniques in a Pre-literate Society	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大澤 清二 (OHSAWA SEIJI) (50114046)	大妻女子大学・人間生活文化研究所・特別研究員 (32604)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	高橋 舞 (TAKAHASHI MAI) (50907128)	大妻女子大学・人間生活文化研究所・助手 (32604)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ミャンマー	国境省民族発展大学			